

# 定例観察会実施報告書

2024年5月19日

実施日 2024年5月12日（日）  
テーマ 人気のハイキングコースで体感。すがすがしい初夏を見に行こう  
コース 六甲ケーブル山上駅～ゴルフ場～記念碑台  
集合 9時30分 六甲ケーブル山上駅 天覧台  
解散 12時30分 記念碑台（予定では14時30分 雨のため午後の案内中止）  
参加者 ビジター 17名 会員 17名（6班 15名）

当日の朝、六甲ケーブルへ向かうバスに時折雨粒が。午後からは降水確率80%のなかビジターの方がどれくらい来られるか不安な状況でした。班の確認事項としては12時までに記念碑台に着き、午後は天候次第では午後の案内は中止すると決めて、9時から天覧台にて観察会の受付を始めました。あいにくのお天気でしたが、ビジターの方が17名いらしてくださり、4班体制でスタートしました。

以下案内の一部を報告します。

まず、天覧台の説明後、眼下に広がる阪神間の街を眺めながら、左側に見える葛城山から手前の摩耶山を確認。天覧台にはノダフジの花が咲いていました。ノダフジのつるが左上へと巻きつけ、クズは右上へと巻きつけることから、葛藤(かっとう)という言葉が生まれたと説明。藤棚の脇には八重のヤマブキとシロヤマブキの花が並んで咲いていました。



階段をおりて右側に進むと、石垣沿いにセンボンヤリが少し見られました。センボンヤリは開放花と閉鎖花という二通りの生存戦略を持っていることについて話しました。少し先に行くとアジサイがあり、神戸市の花であることや幻のアジサイ・シチダンカが六甲山で発見されたことに触れました。その後、アカメガシワ、オオシマザクラ、ケヤマハンノキ、ミズキ、クマノミズキ、サルトリイバラ、イワガラミなどその特徴や暮らしとの関わりについて説明しました。  
←ミズキの花がテーブル状にひろがった枝の上に見事に咲いていました。

また、針葉樹のヒノキは葉の裏の気孔を見て、アスナロやサワラと区別すること。コウヤマキは世界三大公園木の一つで水や火にも強く、古くから良質な材として使われていたことなどを紹介しました。

雨雲に包まれて小雨がぱらつく中、初夏の六甲山ではおなじみのホトギスが鳴く声を聞きながら進みます。

足元にはカキドオシの小さな青紫色の花がたくさん見られました。ただこの辺りにはツタウルシも多く、触るとかぶれることがあるので気を付けるよう注意をうながしました。

カキドオシ→





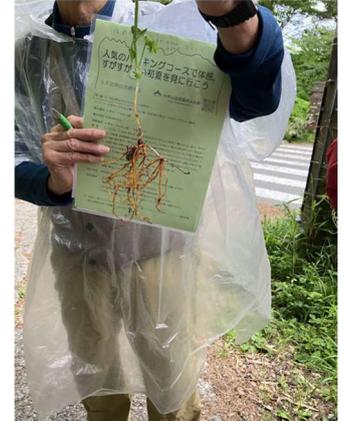
少し先に行くと、イロハモミジの大きな木が堂々とした姿を表しました。この木は昭和4年に道路沿いにサクラと交互に植えたもので、樹齢100年程たっているそうです。道路をおおうほど枝をひろげていました。

続いて、ウラジロノキ、クマイチゴ、ニガイチゴの特性を話しました。

サンライズドライブウェイの道路をわたるとすぐ、ノリツギが見えました。

昔は和紙を作る際に樹皮に含まれる粘液をノリとして利用したことから、その名がついたようです。向かい側にはアザミや アカネがたくましく根づいていました。アカネを掘ってその根を見てみると、その名の通りあかね色で驚きました。

アカネの根→



ここからは上りが続くので、少し給水タイムをとりました。ひと息ついて歩き始めると、スギなどの針葉樹の下で代表的な陰樹と言われるアオキが道沿いに多く見られました。緑の葉に赤い実がつくので、ヨーロッパで好まれるそうです。

続いてシロダモの若葉がフワフワするのをさわったり、クロモジの枝の匂いを嗅いだり、五感を使って観察をしました。足元には、フタバアオイの花が葉の下にそっと咲いていました。



少し明るい場所に出ると、ヤマツツジの紅色の花があちらこちらにきれいに咲いていました。ゴルフ場のそばまで来ると関西タンポポも咲いています。西洋タンポポとは総苞片や繁殖力が違うことを絵を見せながら説明しました。

日当たりの良い場所にはフウロケマンの黄色い花があちらこちらに咲いていました。



空模様が怪しく雨が降り始めました。急いで案内を進めました。ゴルフ場をすぎ全山縦走コースにすすむと、ヤブカンゾウ、アマドコロ、ナルコユリ、ツルカノコソウが見られました。雨脚が強くなってきたので、急ぎ足で記念碑台へ向かいました。

12時、記念碑台の東屋で昼食をとりました。雨風がはげしく止む気配がないので午後の案内は中止となりました。ビジターの方に帰りのバスの時刻や六甲ケーブル山上駅までのアクセスを案内した後、定例観覧会を終了しました。